



# 全国一般評議会

# 闘争情報

No.250

2013. 12. 9

東京都千代田区六番町 1

TEL 03-3263-0441

FAX 03-5210-7422-5

## 2013 「もんじゅ」を廃炉へ! 全国集会 開かれる —危険な「もんじゅ」の運転再開阻止・廃炉、脱原発への決意確認—

12月7日、福井県敦賀市において、「2013 もんじゅを廃炉へ! 全国集会」が開催され、全国から1000人が参加し、高速増殖炉「もんじゅ」廃炉・脱原発への決意を確認しあった。



日本原子力開発機構(原子力機構)の高速増殖炉「もんじゅ」は、1995年12月8日のナトリウム漏えい事故による停止以来、2010年5月6日に約14年半ぶりに運転を再開したものの、再開後の相次ぐトラブルによって、再び運転停止に追い込まれたままの状態にある。さらには、昨年から今年にかけて、1万点を超える機器点検漏れが発覚している。

この間、2011年に発生した福島第一原発事故以来、脱原発への世論はかつてなく高まっている。そして、民主党政権は、昨年9月の「革新的エネルギー・環境戦略」で、「2030年代に原発稼働ゼロをめざす」方向を打ち出した。しかし、安倍自民政権は、こうした世論にも関わらず、原発推進策を放棄せず、近々に決定されようとしている新たな「エネルギー基本計画」では、民主党政権の「2030年代に原発稼働ゼロをめざす」方向は捨て去られ、福島第一原発事故への対応をめぐる状況がますます深刻化している中であっても、「安全を確認した原発は重要な電源」と位置づけられ、原発の再稼働や

新增設を推進していく方向が盛り込まれる模様である。

一方、多数の機器点検漏れが発覚した「もんじゅ」に関しては、文部科学省に設置された原子力機構改革本部がまとめた「日本原子力研究開



発機構の改革の基本的方向」では、原子力機構の「業務の重点化」をはかる方向が示された。しかし、それら「重点業務」の中には「もんじゅを中心とした核燃料サイクルの研究開発」が加わっているというものであった。ずさんな管理を行ってきた原子力機構はもちろんのこと、私たち人類全体にとって、プルトニウムを燃料としナトリウムを冷却材としていることなどによって管理の難しい「もんじゅ」を制御しきることは無理であり、運転再開を行わず、このまま廃炉に追い込むしかないと考える。

この日の集会は、平和フォーラムや原水禁などの呼びかけによって、「もんじゅ」の問題性①燃料として使用するプルトニウムの毒性の強さ・半減期の長さ、②冷却材として使用するナトリウムの危険性(空気や水に触れると激しく爆発・炎上する)、③複雑・繊細な構造で、制御が難しく、事故・災害に弱い、④施設敷地内外地域に多くの断層・破砕帯が存在し、地震に見舞われた際には甚大な被害をもたらされる危険性がある、といった点と、1日も早い「もんじゅ」廃炉への取り組みを進めていくことを全国の仲間を確認しようとの趣旨で、ナトリウム漏れ事故が起きた12月に毎年開かれてきたものである。

集会には、全国から1000人(うち全国一般から140人)が参加した。参加者は、まず、「もんじゅ」に隣接する白木海岸で集会を行った後、「もんじゅ」ゲート前までのデモ行進を行い、代表者が「もんじゅ」廃炉を訴える抗議要請文を原子力機構に渡した。

続いて、午後には、敦賀市内の「プラザ萬象」において屋内集会が開かれた。集会では、鎌田慧さん(ルポライター)、武本和幸さん(柏崎刈羽原発反対地元三団体)、伴英幸さん(原子力資料情報室)、末田一秀さん(反原発運動全国連絡会)が問題提起。講師からは、『戦争のできる国づくり』をめざす安倍政権が、『もんじゅ』にプルトニウムを持っており、そこが核兵器工場になる可能性に思いが及ぶと、どんなに危険なことかと思う。原発は、人類史で見れば、一瞬の繁栄をもたらしたかもしれないが、その後ずっと禍根を残しつつけるもの(鎌田さん)、「エネルギー提供(発電)の実用化の目途のないことがはっきりしている『もんじゅ』を原子力政策大綱やエネルギー基本計画に位置付けていることには無理がある(伴さん)、「新しい『原子力災害対策指針』においてさえ、『原子炉冷却材の漏えい』などという重大事態に至っても、緊急事態区分のうち最も軽い『警戒事態』区分であり、『住民避難』を求めている。問題だ(末田さん)、といった趣旨の発言が重ねられ、また、武本さんは、地震に見舞われた際に甚大な被害をもたらす危険性を持つ、「もんじゅ」の敷地内外の多くの断層・破砕帯の状況について、写真画像などを用いながら説明した。



危険性を持つ、「もんじゅ」の敷地内外の多くの断層・破砕帯の状況について、写真画像などを用いながら説明した。

集会終了後には、参加者は、「プラザ萬象」から敦賀駅前まで、敦賀市街地デモ行進を行い、この日の行動を終えた。